

旭ヶ丘キリストの教会
主日礼拝順序
2026年5月3日

司会：千田俊昭
奏楽：千田祥子

黙 祷		一 同
讃 美※	讃美歌215「あしたの光」	一 同
主の祈り※	(聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください)	
讃 美	讃美歌493「罪の淵に陥りて」	一 同
教会学校	紙芝居「空の星より多く」	牧 師
讃 美	讃美歌500「御霊なる聖き神」	一 同
聖書朗読	イザヤ54:7-10	
奨 励	イザヤ書の福音(第20回)	牧 師
主 題	「慈しみと平安の預言」	
讃 美	讃美歌286「神はわが力」	一 同
献 金	献金と感謝の祈り	
聖 餐		
頌 栄※	讃美歌543「主イエスの恵みよ」	一 同
祝 祷※		牧 師
来週の箇所	イザヤ書第55章	

※印のところでは御起立下さい。

- ☆ はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申し上げます。しかし、初めての方々に無理な勧誘をすることは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
- ☆ 私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
- ☆ 献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです(2コリ9:7)。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
- ☆ キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
- ☆ 第二礼拝後、軽食を用意してありますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
- ☆ 二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

旭ヶ丘キリストの教会 ニュース



【今週の歩み】
5/3(日:憲法記念日) 聖日礼拝
/4(月:みどりの日)
/5(火:こどもの日)
/6(水:振替休日)
/7(木)10:00聖研
/8(金)
/9(土)13-16子供オプ'ハウス



【祈りの課題】

- ① 家族の救いのために
- ② 礼拝に来れなかった人々のために
- ③ 教会学校の子供たちが救われますように

良書ハイライト

「インドに宣教したウィリアム・ケアリ」

(「幸いな人」19/7/3~25/10/16の5コラム要約)

現代宣教の父と言われるウィリアム・ケアリは18世紀イギリスに生まれた靴職人でした。靴屋を営みながら、ヘブル語、ギリシャ語などを学び習得しました。彼は大きな世界地図を買ってきて、仕事場の壁に貼り付け、各国の事情や統計などを調べては地図に書き込んでいました。熱心に聖書研究を行い、宣教地に関する数多くの資料を調べている内に、世界中から福音の刈り入れをすることは教会の責任であると確信しました。そして教会の長老たちのところに行き、自分を宣教師として派遣してほしいと相談しましたが、返事は冷たいものでした。「ウィリアム、君は靴屋の仕事に精を出しなさい。神がインドや他の国々の人たちの救いを願われるとしても、君の助けを必要とはなさらないのだよ。」当時「未開の地に福音を届ける」という考えは現実味が薄く、多くの人たちがその夢をあざ笑いましたが、彼は諦めず、むしろ、ケアリの伝道への確信はさらに強まり、ついに1793年、「異教徒への福音宣教バプテスト会」の最初の宣教師として、インドに派遣されたのです。

しかし、インドで彼は度重なる失敗と苦難に遭遇し、何度も諦めそうになりました。彼の家族は病に苦しみ、妻は精神を病んでしまいます。宣教活動も実を結ばず、周囲からは失敗者とみなされました。それでも彼は「偉大なことを神から期待し、偉大なことを神のために試みよう」という自身の信念を胸に、粘り強く宣教活動を続けました。ケアリは膨大な時間をかけて現地言語を習得し、聖書の翻訳に取り組みました。翻訳、教育、社会改革といった働きを通じて、彼は福音の光を実際にインドにもたらしました。

1812年、インドのセランポールという町で火災が発生し、大切な10言語の聖書翻訳原稿やベンガル語の辞書原稿、本製作に必要な機材なども失われてしまったのです。この時のことをケアリは次のように記しています。「これは余りにも大きな打撃で、これから長い間、聖書印刷はできず、この状況を簡単に乗り越えることは難しいだろう。しかし、神様は必ずこれら全ての苦しい出来事を働かせて、私達に大きな益をもたらして下さるはずだ。」間もなく、その災害のことが母国イギリスのクリスチャンの心を動かし、ケアリたちの宣教の働きの大切さを知る事になりました。50日もたたないうちに1万ポンドの献金が集められ、翌年末には印刷所が再建されたのです。彼はその地で35種の言語に聖書を翻訳し、5つの言語の文法書、2つの言語の辞典を発行しました。その結果、多くの部族が自分たちの言葉で聖書を読むことが出来、信仰に導かれました。

1832年、ベンガル語の聖書第8版が完成した時、ケアリは「私の分の働きは達せられた」と語り、その2年後、インドで41年の時を過ごしたケアリは73歳で天に召されていきました。彼の墓碑には次のように書かれています、「ウィリアム・ケアリ、1761年に生まれ、罪深く弱い虫けらのように能力のない私は、あなたの憐れみの御手にすがって眠ります」。